麻布幼稚園だより　7月号

令和元年6月28日　港区立麻布幼稚園　　園長　藤田　智子

『　魔法の言葉　』

園長　藤田　智子

先週の土曜日は、保育参観・親子活動へのご参加ありがとうございました。親子活動では、お家の方と一緒に活動するそれぞれの学級の子どもたちの嬉しそうな笑顔が印象的でした。親子活動後は、埼玉学園大学大学院教授　藤枝静暁先生による『幼児期の特徴と関わり方のコツ～親子で自己肯定感アップ！～』の講演会にご参加いただきました。３，４，５歳児それぞれの学年の遊びの変化や特徴、心の成長、子どもたちの自己肯定感を高めるために必要な親の関わり方について具体的な子どもたちの姿を通して教えていただきました。「時間、声、目線、愛情、手間暇をたっぷりとかけて育てましょう」「温かさに触れたとき、自分も他者に温かく接することができる」というお話から、それぞれの幼児の良さを褒め、認めながら、愛情をたくさんかけて育てていくことの大切さを改めて感じました。藤枝先生の優しく温かいお人柄を感じながら、子どもたちのより良い成長のために大切なことについてじっくりと考えることができた有意義な時間でした。

さて、『褒める』ことについて考える時に、いつも浮かぶ詩があります。とても有名な詩なので、ご存知の方も多いことと思います。アメリカの家庭教育・子育てコンサルタントのドロシー・ロー・ノルト著『子どもが育つ魔法の言葉』の「子は親の鏡」の中の一節です。

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

※ドロシー・ロー・ノルト　　レイチャル・ハリス
『子どもが育つ魔法の言葉』　ＰＨＰ文庫　1999　より一部抜粋

子どもたちは、褒められて自信を付け、認められて自己肯定感をもつようになります。いけないことはしっかり叱りつつも、よりよく育ってほしいという気持ちのこもった褒め方、叱り方を、状況に合わせてしていくことを心掛けたいですね。

「子は親の鏡」には、

分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ

という言葉もあります。

自分を大事に思う気持ちは、大事な存在として接してくれる相手がいることで育っていきます。また、そのような環境の中で育つことで、自分の周りの人々を大事に思う気持ちが育まれていきます。『自分も大事　相手も大事』という意識の育ちは相互作用であることを常に意識し、『魔法の言葉』を積極的に使いながら、温かい心を育てる教育活動を行っていきたいと思います。

来週からいよいよ７月。梅雨が明けたら夏本番です。爽やかに青く晴れた空のもと、プール、船作り、七夕の笹飾り作り、砂場での水遊びなど、この季節ならではの経験を思い切り楽しめるようにしていきたいと思います。

７月の麻布幼稚園も、どうぞよろしくお願いいたします。